

令和3年度岐阜県美術館協議会 議事要旨

- 1 日 時：令和4年2月28日（月） 15：30～16：30
- 2 場 所：岐阜県美術館 特別応接室
- 3 出席者：【委員】
村瀬会長、矢島委員、猫田委員、山田委員、鈴木委員、地守委員、河西委員、熊崎委員、所委員、松川委員、高田委員、福井委員、杉山委員、清水委員
（欠席：篠田委員）
【県】
日比野館長、田中副館長、正村副館長、日比野課長、青山課長、廣江係長、古川係長（以上、美術館）
河田課長、山内係長、松久主査（以上、文化伝承課）
- 4 議 題：令和2年度及び令和3年度の美術館事業について
令和4年度の美術館事業について
- 5 議事要旨：
（熊崎委員） 展示作品が多く、展示方法が凝っており感心している。
「大橋翠石」、「前田青邨」など地元作家の作品をじっくり鑑賞できる展覧会を多く開催して欲しい。

（地守委員） 展示室が3箇所あり、得した感じがするが、展示作品が多く疲れてしまうため、展示室内に座れる場所を設けて欲しい。

（村瀬会長） ゆっくり座ったりすることができる場所があった方がよい。

（矢島委員） コロナ禍で人の密を避ける展覧会の開催は大変であると思う。文化、芸術はWebでも鑑賞できるが、本物を観ることで感動を与える。コロナ禍であっても工夫して進めることは、文化の振興には大切であると思う。
コロナ禍以前のように多くの人に来ていただくことは難しい時代になったため、見せ方の工夫や、入館者を予約制にすることで観る機会を増やしたらどうか。

（松川委員） 多彩な事業展開はすごいと感じる。教育普及事業を斬新な形で取り入れている。閉塞感がある中で、生の芸術に触れることも大切で

あるが、「Google Arts & Culture」を取り入れていることは良いことと感じる。意欲的に展開して欲しい。ここまで足を運ぶことができない方も多く、オンライン鑑賞は一つの方法である。色々な形で展開すると良いと感じる。

(正村副館長) 「Google Arts & Culture」は、この1年をかけて作品の選出、解説、英語訳を行ってきた。当館の特徴は、美術作品の紹介だけでなく、「such such such」のような当館の特色のある教育普及的の事業にも触れている。これは他館とは違う取り組みである。

また、「おうちに居ながら」もバーチャルで観ることができるツールである。

(福井委員) 美術の免許を持っている教員は小学校41%、中学校52%であり、残りは非常勤等の教員である。また、6年目までの美術教員の離職率は約3割である。孤立感を持ち、どのようにして良いかわからないと感じている教員が多く、繋がる場所が必要であり、美術館の教育普及事業が鍵になると思われるため、相談等への協力もいただきたいと思っている。

(鈴木委員) 岐阜県美術館は「緑」があり「建物」や「展示作品」が充実している。現代美術など若い方向けの展覧会を実施しているが、もっと若者が足を運ぶ場所になると良いと思う。若いうちに美術館に触れて欲しいと思う。

(杉山委員) 本物の美術を生で見ることは、心に良いと感じた。様々な企画を実施し、「Google Arts & Culture」等を取り入れているが、その情報が子どもへ届いておらず、子どもが生で美術に触れる機会を逃していると思う。学校を通じてで良いので、子どもに対する広報をしてもらおうと良いと思う。

(山田委員) 名古屋市美術館では、現在予約制の展覧会を開催している。かなりの入館者があるものの、声を出さず、作品に向かって同じ方向を向いており、一か所に長時間留まらないため、コロナ禍でも人の密を気にすることなく美術館は大丈夫ではないかと感じている。

全世代受けをする「もの」がない。今、全世代がある「もの」に集中することがないと思う。岐阜県美術館での展覧会は、どの世代をターゲットにするか検討しているのか。

(正村副館長) あらかじめ企画段階でどの世代向けか検討している。また、ターゲットの世代以外の方をどのように引き付けるかも検討している。年間計画の中で、1年を通じたバランスも考えており、例えば若者向けと若者以外向けの展覧会を同時に開催するなど、全ての世代が観覧できるよう計画している。

(清水委員) 岐阜県美術館は県民の誇りと思っている。コロナをはじめ様々な困難がある中で、絶え間なく展覧会を開催していることは、学芸員の皆様のご苦勞のおかげである。

子ども目線で楽しめる企画が意図してあると良いと思う。

また、AiM等で若い作家を応援するのは岐阜県美術館ならではのと思う。

(高田委員) 2024年の総合文化祭は、高校生や特別支援学校の生徒の活躍の場になるため、美術館と協力していきたいと考えている。

青少年美術展における「ナンヤローネ賞」は子どもたちの才能を評価していただいたため、今後もお願いしたい。

また、バーチャルな企画も進めて欲しい。

(所委員) コロナ禍で完全に閉館している期間があったが、多くの企画を工夫しながら実施していることに興味している。

美術館教育と学校教育は共通の2本の柱と考えているため、子どもたちに芸術に触れさせたいと思っている。

(河西委員) 昨年度も今年度も立体の充実した展示があり、嬉しいと感じている。特に「素材転生展」は、独自性の高い魅力的な展示であった。来年度の「円空大賞展」も世界の作家の作品を集めており、魅力的である。

コロナ禍で、休館を余儀なくされ大変であったと思う。感染対策をしっかりと取っていることをアピールし、開館できることを検討して欲しい。

常設展示での写真撮影、個人のSNSでの写真のアップ、展示室内でのスケッチなどができ、子どもたちが気楽にできるような環境ができれば良いと思う。